

令和元年度

第1回 近江八幡市まち・ひと・しごと創生懇話会

報告書

近江八幡市

目次

- | | |
|------------------|-----|
| 1. 概要 | P 1 |
| 2. 委員からの意見及び対応方針 | P 2 |
| 3. 講評 | P 6 |

参考資料

1. 設置要綱
2. 委員名簿
3. 事業シート
4. 議事録

1.概要

1. 懇話会設置の趣旨

まち・ひと・しごと創生法（平成 26 年法律第 136 号）第 10 条第 1 項の規定に基づき策
定した近江八幡市まち・ひと・しごと創生総合戦略の推進に関して広く意見を聴くため。

2. 日時：令和元年 7 月 23 日（火曜日） 13 時 00 分から 15 時 45 分

3. 場所：近江八幡市役所 4 階 第 3・4 委員会室

4. 対象事業（カッコ内は担当課）

事業シート No.1	東近江地域広域婚活事業	(企画課)
事業シート No.2	未来づくりキャンパス事業	(企画課)
事業シート No.3	「戦国・安土」を活かした観光プロモーション	(文化観光課)
事業シート No.4	インバウンド誘致事業	(文化観光課)
事業シート No.5	観光動向調査・データ分析	(文化観光課)
事業シート No.6	近江八幡 0 次予防シェアリングプラットフォーム 形成事業	(健康推進課)
事業シート No.7	共生型居場所づくり & コグニウオーク	(健康推進課)
事業シート No.8	安寧のまちづくり (CCRC) 推進事業	(文化観光課)

5. 委員（敬称略・順不同）

秋村 田津夫	(近江八幡商工会議所 会頭)
大嶋 英寿	(近江八幡金融協議会／滋賀銀行八幡支店 支店長)
城念 久子	(近江八幡市安寧のまちづくりプロデュース委員会 委員／オレガノ代表)
白須 正	(龍谷大学 政策学部 教授) ※座長
土井 勉	(一般社団法人グローバル交流推進機構 理事長)
江南 仁一郎	(近江八幡市 副市長)

2.委員からの意見及び対応方針

各事業に対する委員からの主な意見及び助言と、それに対する担当課の対応方針（令和元年10月時点）

(1) 事業シートNo.1 東近江地域広域婚活事業

担当課：政策推進課

委員の主な意見	意見に対する担当課の対応
本事業を通じて成婚された方に、事前講習会において体験談を語ってもらうことを検討されたい。	成婚者の方々に体験談を語っていただくことは難しいと考えられるため、インタビューをし、代読をする方法等を検討します。
カップル成立しても成婚には至らなかった方や、結婚寸前までいった方などからも話を聞き、今後の事業展開に活かされたい。	事後アンケートにて、成婚に至らなかった方で氏名等を把握している方については、可能な限り情報把握するよう努めております。

(2) 事業シートNo.2 未来づくりキャンパス事業

担当課：企画課

委員の主な意見	意見に対する担当課の対応
国の補助が得られずとも、事業実施できるよう方策を検討されたい。	事業費の大幅減額が前提となるが、若者をターゲットとした、地域循環共生圏の構築に向けたフィールドワーク中心の学びの場を創出します。

(3) 事業シートNo.3 「戦国・安土」を活かした観光プロモーション

担当課：文化観光課

委員の主な意見	意見に対する担当課の対応
一過性のものに終わることのないよう、持続性のある取組として進められたい。	大河ドラマ放映後も使用可能な安土をイメージしたロゴマークの制作など、持続性のある取組は、推進協議会の重要事項と位置付けています。
複数の市町が連携することはもちろん、地域の地元住民や事業者とも連携し、関心を抱いてもらえるよう進められたい。	地元各種団体、関係事業者が加入する推進協議会にて取り組んでおります。今後も、観光客だけでなく、地元住民に関心を持っていただけるよう取り組んでまいります。

(4) 事業シートNo.4 インバウンド誘致事業

担当課：文化観光課

委員の主な意見	意見に対する担当課の対応
長期滞在してもらえよう、近江八幡のまちを深く感じてもらえる素材を準備されたい。	外国人観光客が魅力を感じる素材の磨き上げ、新たな発掘に努めます。 現在、インバウンドにターゲットを絞ったPR動画の制作をしており、長期滞在につなげてまいります。
ターゲットについて、単に日本文化に関心が高いということだけで決めるのではなく、現在の需要、今後の需要予測や日本文化との関わりについても整理しながら進められたい。	現在の需要、今後の需要予測の把握に努めながら当事業を推進します。 また、来訪者に対し、本市のどこに魅力を感じるか、どこが良かったかなどの把握にも努めます。
公共交通を利用した移動の問題についても十分に検討し、スマホ時代に対応した手法を講じられたい。	今後、PRだけでなく外国人観光客が（公共交通を主とした）スムーズな移動ができるようスマホを活用した環境整備も検討してまいります。

(5) 事業シートNo.5 観光動向調査・データ分析

担当課：文化観光課

委員の主な意見	意見に対する担当課の対応
アンケート調査については、調査票の配布と回収のタイミングをよく検討されたい。また、次のプロモーションを検討する際に活かせるよう、優先して聞く項目をよく検討されたい。	観光動向調査については、調査項目、内容、タイミング等を十分考慮しながら実施します。 調査・データ分析結果を今後の観光戦略策定に活かせる調査内容といたします。

(6) 事業シートNo.6 近江八幡0次予防シェアリングプラットフォーム形成事業

担当課：健康推進課

委員の主な意見	意見に対する担当課の対応
もっと仲間作りが可能な場とし、更に多くの人に参加してもらえよう工夫されたい。	地域で活躍する0次予防サポーターの人材育成を継続的に実施するとともに、養成したサポーターへ情報提供や話合いの場を提供し、活動意欲の向上と仲間作りの支援を行います。

(7) 事業シートNo.7 共生型居場所づくり&コグニウォーク事業

担当課：健康推進課

委員の主な意見	意見に対する担当課の対応
協働を予定するボランティアや企業が参加しやすいよう、休日開催も検討されたい。	本事業の主旨が共生型居場所づくりと高齢者のフレイル予防などの介護予防事業であることから、現状では主に市内の介護事業所に協力をいただいております。それら協力者の希望を反映して平日開催としています。

(8) 事業シートNo.8 安寧のまちづくり（CCRC）推進事業

担当課：企画課

委員の主な意見	意見に対する担当課の対応
通常に分譲宅地と差別化するためにも、募集方法に加えて、菜園を設けるなどの特徴づけを検討されたい。	募集方法は、目的意識のある人を呼び込めるような様々な手法を検討してまいります。 また、共有スペースを設置することにより、菜園で作業ができ、バーベキューが開催できるような仕組みを構築し、様々な世代の入居者が交流出来ることにより他に無い特色あるまちが形成できるよう進めてまいります。

3.講評

令和元年7月23日に、令和元年度第1回目の近江八幡市まち・ひと・しごと創生懇話会が開催された。

本会議は、「近江八幡市まち・ひと・しごと創生総合戦略」に基づく施策の推進に関して広く意見を聴くために設置されている。施策推進のための事業をより効果的に進めるためには、事後の評価・検証だけでなく、事業の実施にあたっては懇話会で意見を聞くことが必要であるということから、当該年度の事業内容、事業の進め方などについて説明し、意見、助言を求めめるために一昨年度、昨年度に引き続き7月に開催されたものである。

今回は、①地方創生推進交付金の対象である6事業、②県自治振興交付金の対象である1事業の他に、これまで3年間継続して実施してきた「未来づくりキャンパス事業」の合わせて8事業について、担当部署から事業シートと付属資料に基づき要点を整理した説明の後に、質疑応答、意見交換を行い、委員から数多くの質問、指摘、意見が出された。

事業シートNo.1「東近江地域広域婚活事業」については、取り組みを重ねる中で着実に成果が表れていることは評価できる。参加者アンケートの意見を取り入れ、内容に工夫を重ねることが大切である。縁結びサポーターの役割が重要なので、効果的な研修になるよう努力と工夫を求める。

事業シートNo.2「未来づくりキャンパス事業」は、昨年度は具体的な活動に結びついたものが4件あるなど、費用対効果が表れているといえる。事業スケジュールについては、冬場は成果が出にくいこともあり、早い時期から実施することも考えるべきである。中高生をターゲットにすることも若い世代からまちづくりに関わってもらおうということで大切である。今年度は国の補助が得られず予算の制約があるが、重要な事業なので、より効果的に事業を進めていきたい。

事業シートNo.3「戦国安土を活かした観光プロモーション」は、安土をPRし、観光振興を図る絶好の機会であり、地元の期待も大きい。一過性のものにならないような工夫が必要である。関係する市町とも連携し、地域全体として盛り上げていくことが大切である。また、これを契機に地元住民や事業者も巻き込み、地域のことをより深く知ってもらうことが、まちの活気に繋がり、資産にもなる。

事業シートNo.4「インバウンド誘致事業」は、事業の取組を早めていくことが必要である。また、PR活動により外国人観光客が訪れてきた時に、どうして楽しんでもらうかを考え、近江八幡に長く滞在してもらえよう受け皿づくりが必要である。スマホ時代に対応した外国人観光客対策も考えておくべきである。

事業シートNo.5「観光動向調査・データ分析」は、アンケート調査を実施するにあたっては、調査票の内容を「何を調べたいのか」という観点からよく整理するとともに、配布と回収のタイミングに留意する必要がある。観光物産協会に事業を委託する際には、観光協会の体制を整備することが大切である。たんなる調査・データの収集に終わることなく、結果を観光戦

略に十分活用してもらいたい。

事業シートNo.6「近江八幡0次予防シェアリングプラットフォーム形成事業」は、非常に良い取組といえるが、新たな来所者を増やすなど、より広がりのある事業にしていくことが重要である。健康サポーターが、地域活動などでも重要な役割を果たすので、サポーターのケアをしっかりとすることを望む。

事業シートNo.7「共生型居場所づくり&コグニウォーク推進事業」は、高齢者が健康とどう向き合っていくかが大切になっているなかで、自己管理能力を高めるという点でも重要な事業といえる。ボランティアや企業に協力してもらうには、平日だけでなく土日での開催も検討すればどうか。より多くの方が参加できるよう、工夫を重ねてもらいたい。

事業シートNo.8「安寧のまちづくり(CCRC)推進事業」については、西の湖エリアの事業が進み、モニターツアーも好評であるなど、おおむね順調に進んでいるが、事業計画からは通常の住宅地との違いが分かりづらいところがある。この計画だけで完結させるのではなく、地域との連携の中で、新たな人の流れが生まれるような地域づくりが必要である。このことが結果的に、高齢者の皆が集まるのではなく、多世代が集うエリアにすることが地域への定着にもつながる。

以上、各事業に対する委員会の指摘、意見を簡潔に整理したが、各委員から多くの意見、指摘が出されるとともに、行政からも内容や考え方について説明が行われ、施策の推進に向けた建設的な議論が交わされた。

最後に、事業全体を通じて、委員から次のような意見が出された。

- ・全体として、事業の成果が様々な形で現れ始め、よい方向に向かっている。
- ・人材を切り口とした事業が多いが、人が資産、宝であり、人材を活かすという観点から人材育成には惜しまず取り組んで欲しい。
- ・未来づくりキャンパス事業については、高校生も多く参加し、実際に事業化されているなど成果が現れている。こうした重要な事業は、国の助成が得られなくても前向きに取り組むを進めていくことが大切である。
- ・今回は、単一の事業だけでなく、それぞれの事業との関連性を把握しながら検証できたのでわかりやすかった。
- ・より多くの住民に周知し、事業に新しい人が参加するということが重要であり、このことが地域に対する愛着にも繋がる。
- ・事業を通じて、地域に対する市民にシビックプライドを高めることが重要である。

(総括)

全体として、「近江八幡市まち・人・しごと創生総合戦略」の推進に着実に取組み、成果をあげつつあるといえる。今年度対象とした事業は新しい項目もあり、既存の事業でも新たな内容も含まれていたが、これまでの取組を振り返り、必要な改善・工夫を重ねるとともに、相互の連携についてもこれまで以上に意識されるようになっている。

ただ、個別事業に関しては、事業の着手・実施のスケジュールが少し遅く、より効果的に事業を進め、成果をあげるためには、事業の実施時期を早めた方がよいものもみられる。

掲げられた事業は相互に関係するものも多く、庁内間の横連携はもちろん、関係組織、団体とも連携、協力することで、効果的な事業の推進を図ることが重要である。今回の懇話会での指摘を踏まえ、対象事業がより効果的、効率的に進められ、大きな成果が生まれることを期待する。

近江八幡市まち・ひと・しごと創生懇話会座長 白須 正